数値地図（国土基本情報）

メッシュ標高情報データ

ファイル仕様書

第 1．4 版

令和 8 年 7 月

国土交通省国土地理院

更新履歴

版	更新日	内容	備考
V1	2014/07/31	第１版作成	
V1.1	2016/10/31	JPGIS2014 形式のデータセットについて、文字セットをSHIFT-JISからUTF-8へ変更	
V1.2	2021/7/30	シェープファイル形式のデータセットについて、文字セットをSHIFT-JISからUTF-8へ変更	
V1.3	2025/7/31	座標参照系の変更 DEM構成点種別の列挙値に「海水底面」、「内水底面」を追加 応用スキーマの変更 ①DEM構成点種別に海水底面、内水底面を追加	
V1.4	2026/7/31	配布形式情報の記載を一部変更	

目次

1. 概要 1

1.1. 目的 1
1.2. 範囲 1
1.2.1. 空間範囲 1
1.2.2. 時間範囲 1
1.3. 引用規格 1
1.4. 用語と定義 1
1.5. 略語 1
1.6. 本仕様書の作成情報 2
1.7. 問い合わせ先 2

2. データ内容及び構造 3

2.1. 応用スキーマ（UMLクラス図） 3
2.1.1. パッケージ構成 3
2.1.2. 基盤地図情報基本パッケージ 4
2.1.3. 基準点等パッケージ 5
2.2. 応用スキーマ文書（地物カタログ） 6
2.2.1. 地物カタログ情報 6
2.2.2. 地物情報 6
基盤地図情報基本パッケージ 6
基盤地図情報地物 6
表示区分 （列挙型） 7
地理情報レベル（列挙型） 7
地理情報レベル_一般（列挙型） 8
地理情報レベル_基準点（列挙型） 8
地理情報レベル_水準点（列挙型） 8
地図情報レベル（列挙型） 9
地図情報レベル_一般（列挙型） 9
基準点等パッケージ 10
DEM区画 10
DEM種別 （列挙型） 10
CV_DiscreteGridPointCoverage 10
CV_GridValuesMatrix 11
DEM構成点 12
DEM構成点種別 （列挙型） 13

3. 参照系 14

3.1. 座標参照系 14
3.2. 時間参照系 14

4. 配布に関する情報 15

4.1.　配布方法 15
4.2.　配布形式情報 15
4.2.1.　データセット構成 15
4.2.2.　符号化規則 15
4.2.3.　言語 15
4.2.4.　名前空間 15
4.2.5.　地物及び空間オブジェクトの識別情報 16
4.2.6.　符号化におけるタグ名 16
4.3.　XMLスキーマ定義ファイル 17

1. 概要

1.1. 目的

本仕様書は，国土地理院が数値地図（国土基本情報）として刊行するデータのうち、メッシュ標高情報データの仕様について記述している。

1.2. 範囲

本仕様書が対象とする空間範囲及び時間範囲は次のとおりである。

1.2.1. 空間範囲

メッシュ標高情報データの空間範囲は，日本国全域を含む範囲とする。

1.2.2. 時間範囲

メッシュ標高情報データの時間範囲は，特に定めない。

1.3. 引用規格

本仕様書は，次の規格を引用する。

- JIS X7107 地理情報－空間スキーマ
- JIS X7108 地理情報－時間スキーマ
- JIS X7109 地理情報－応用スキーマのための規則
- JIS X7110 地理情報－地物カタログ化法
- JIS X7111 地理情報－座標による空間参照
- JIS X7112 地理情報－地理識別子による空間参照
- JIS X7113 地理情報－品質原理
- JIS X7114 地理情報－品質評価手順
- JIS X7115 地理情報－メタデータ
- JIS X7123 地理情報－被覆の幾何及び関数のためのスキーマ
- JIS X7131 地理情報－データ製品仕様
- JIS X7136 地理情報－地理マーク付け言語（GML）
- ISO/TS 19103 Geographic Information － Conceptual schema language
- ISO 19118 Geographic Information － Encoding
- 日本版メタデータプロファイル（JMP2.0仕様書）
- 地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014
- 品質の要求，評価及び報告のための規則（令和元年7月）
- JIS X0301 情報交換のためのデータ要素及び交換形式－日付及び時刻の表記
- JIS X0410 地域メッシュコード

1.4. 用語と定義

本仕様書で使用する専門用語とその定義については次の資料に従う。

地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014

1.5. 略語

本仕様書で使用する略語は以下のとおりである。

DEM	Digital Elevation Model 数値標高モデル
GML	Geography Markup Language 地理情報マークアップ言語

JMP	Japan Metadata Profile 日本版メタデータプロファイル
JPGIS	Japan Profile for Geographic Information Standards 地理情報標準プロファイル
OID	Object Identifier オブジェクト ID（オブジェクト識別子）
UML	Unified Modeling Language 統一モデリング言語
UUID	Universal Unique Identifier ユニバーサル固有識別子
XML	eXtensible Markup Language 拡張可能マークアップ言語

1.6. 本仕様書の作成情報

本仕様書の作成に関する情報は，次のとおりである。

・仕様書の題名：数値地図（国土基本情報）メッシュ標高情報データ ファイル仕様書
・バージョン：第 1.4 版
・日付：2026-07-31
・作成者：国土交通省国土地理院
・言語：日本語
・分野：数値地図（国土基本情報）
・文書形式：PDF

1.7. 問い合わせ先

国土交通省 国土地理院 基本図情報部
電話:029-864-1111
Web:https://www.gsi.go.jp/contactTop.html

2. データ内容及び構造

数値地図（国土基本情報）のメッシュ標高情報データ（5m,10m,50m メッシュの 3 種類）のうち、5m,10m メッシュデータは、基盤地図情報（数値標高モデル）として提供している 5m,10m メッシュと同一である。

そこで、本章では「基盤地図情報ダウンロードデータファイル仕様書第 5.3 版（令和 8 年 7 月）」から該当する箇所を抜粋し、50m メッシュについて記述を追加して、数値地図（国土基本情報）のメッシュ標高情報データのデータ内容及び構造を説明している（基盤地図情報ダウンロードデータファイル仕様書第 5.3 版からの変更箇所は「赤字」で記載）。

2.1. 応用スキーマ（UML クラス図）

この節では，基盤地図情報ダウンロードデータの応用スキーマを，UMLクラス図を用いて記述する。

2.1.1. パッケージ構成

基盤地図情報ダウンロードデータ 応用スキーマのパッケージ構成を図2-1に示す。ここで地理情報標準提供クラス群とあるのは，JIS X 7100シリーズ，ISO19100シリーズに準拠したJPGISによって提供される各種パッケージを包括して指している。

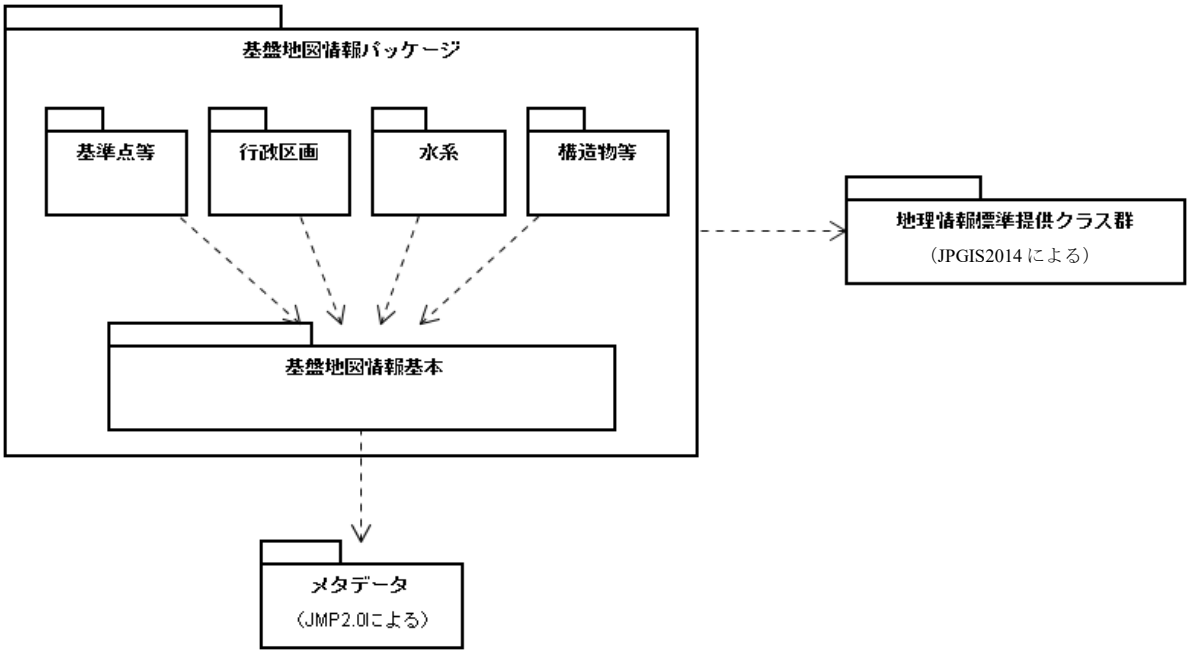


図 2-1 パッケージ構成

2.1.2. 基盤地図情報基本パッケージ

基盤地図情報基本パッケージの内容を図2-2に示す。このパッケージは，基盤地図情報として定義されたすべての地物の親クラスである「基盤地図情報地物」抽象クラスを定義している。

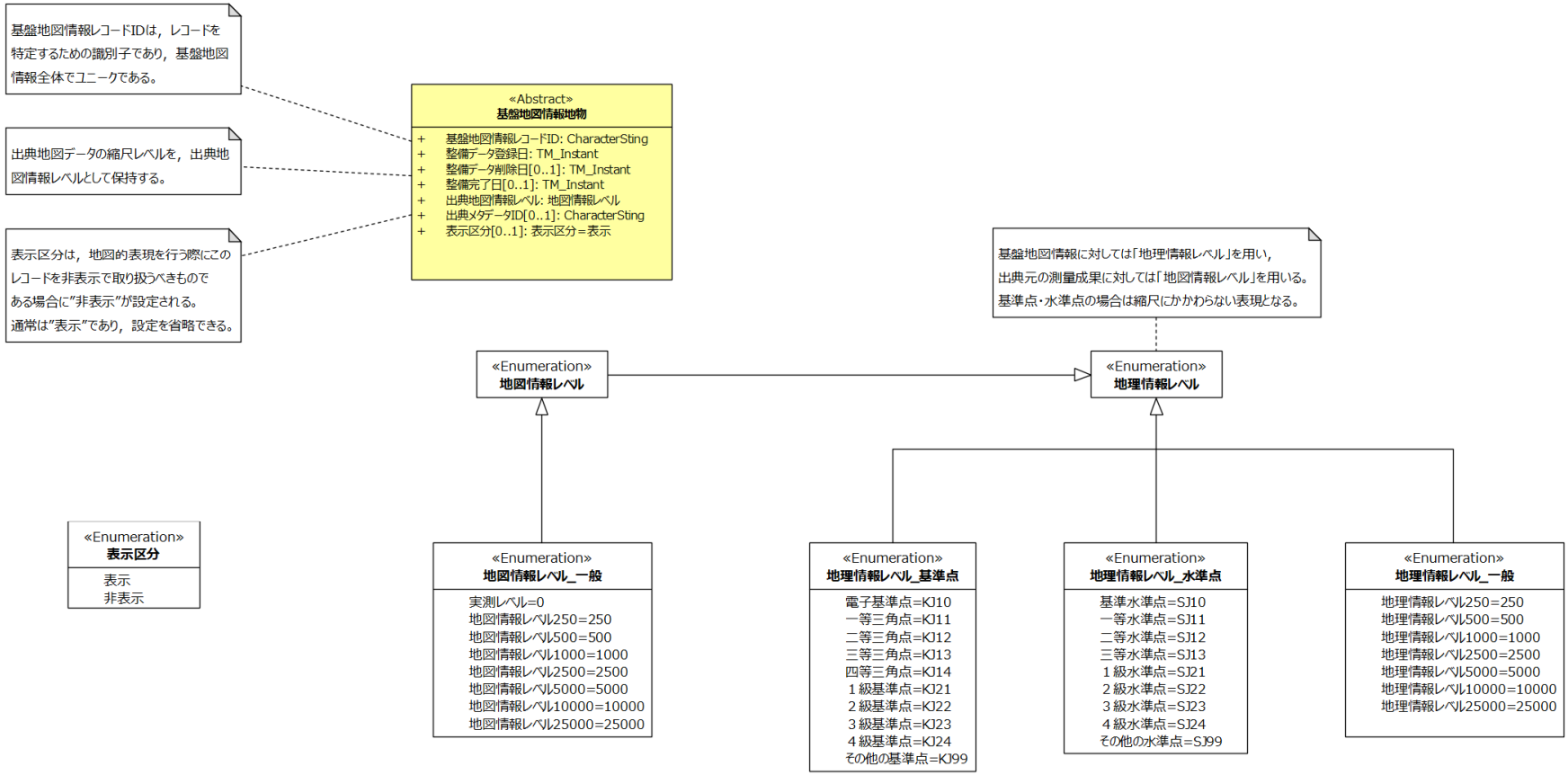


図 2-2 基盤地図情報基本パッケージ

2.1.3. 基準点等パッケージ

基準点等パッケージの内容を図2-3に示す。このパッケージは，基準点，標高点とそれに類するクラスを定義している。

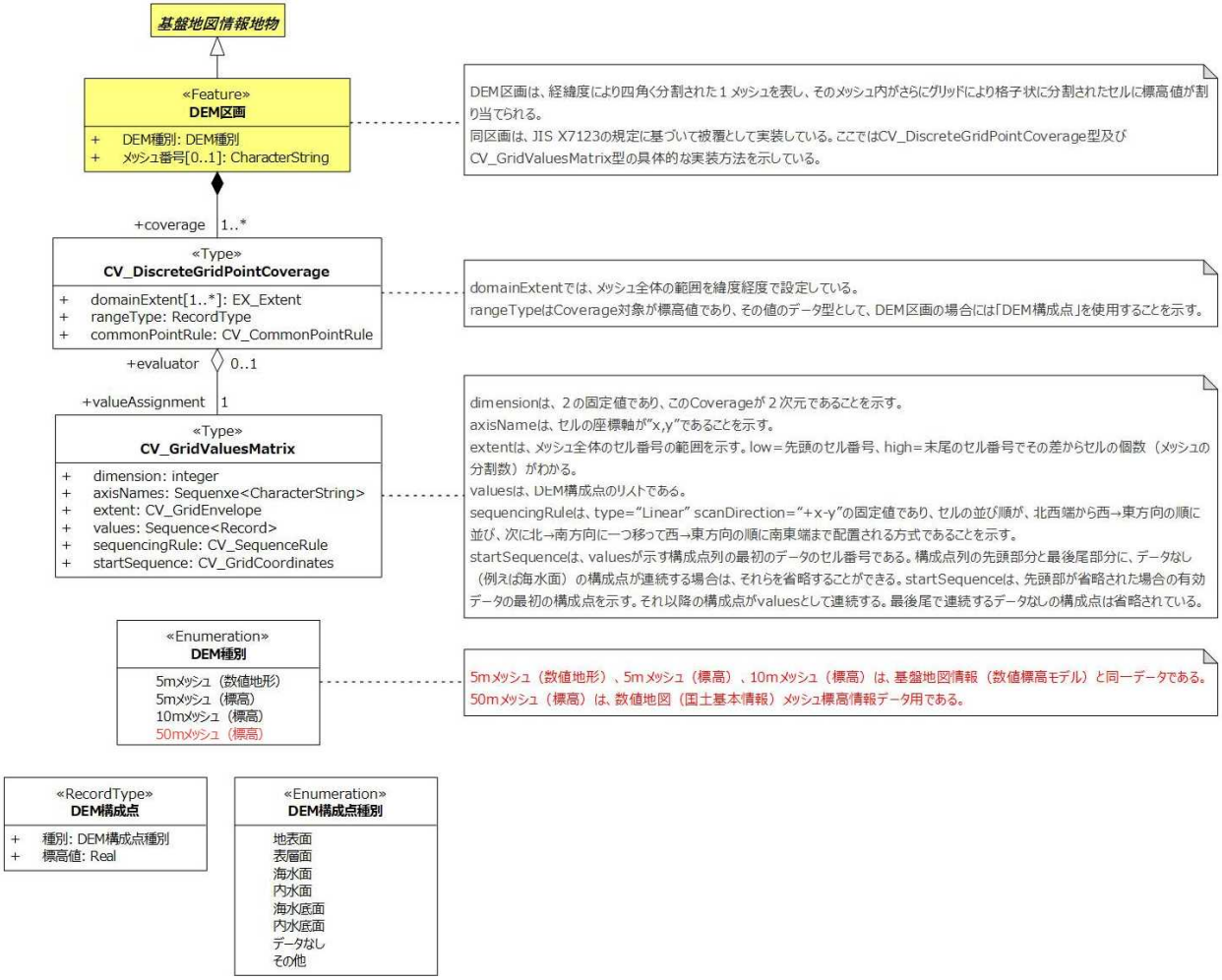


図 2-3 基準点等パッケージ

2.2. 応用スキーマ文書（地物カタログ）

この節では基盤地図情報ダウンロードデータの応用スキーマとして定義されたすべてのクラスに関する詳細情報を，JIS X7110に準拠した地物カタログとして記述している。

2.2.1. 地物カタログ情報

この項では，JIS X7110におけるFC_FeatureCatalogueクラスの情報を記述している。

地物カタログ名： 基盤地図情報 地物カタログ

対象範囲： 本仕様書が対象とするすべての地物

バージョン： 本仕様書のバージョンと同一

発行年月日： 本仕様書の日付と同一

作成機関： 本仕様書の作成者と同一

2.2.2. 地物情報

この項では，基盤地図情報として定義された地物クラス群およびそれと関連したクラスについて，JIS X7110におけるFC_FeatureType，FC_PropertyType，FC_FeatureAttribute，FC_AssociationRole，FC_InheritanceRelation，FC_DefinitionReference，FC_ListedValueの各クラスに対応した情報を記述している。

なお，各地物の空間属性はJIS X7107 空間スキーマに準拠する上で，本項の各地物の空間属性の記述において，空間スキーマの適用パターンを限定している。その適用パターンの内容は，次項「空間属性の適用パターン」で定義している。

基盤地図情報基本パッケージ

このパッケージは，基盤地図情報ダウンロードデータとして定義されたすべての地物の親クラスである「基盤地図情報地物」抽象クラスを定義している。

基盤地図情報地物

「基盤地図情報地物」抽象クラスは，この応用スキーマで定義されたすべての地物クラスの親クラスである。

上位クラス： なし

抽象/具象区分：抽象

属性：

基盤地図情報レコードID : CharacterString

すべての基盤地図情報のなかで，レコードを一意に識別するID。

整備データ登録日 : TM_Instant

基盤地図情報としてこのレコードを生成した時点。
地物の実体が存在しはじめた時点ではない。
データ形式はyyyy-mm-dd形式である。

整備データ削除日[0..1] : TM_Instant

基盤地図情報としてこのレコードが現存しないと判断された時点、もしくはされるべき時点。
データ形式はyyyy-mm-dd形式である。

整備完了日[0..1] : TM_Instant

このレコードIDを含む基盤地図整備作業が完了した年月日。ただし，このレコードが「測量の基準点」の場合は，改測による成果の改定や廃点など状況が変化することから，基盤地図情報として保持している基準点がいつ時点の情報であるかを明らかにするため，基盤地図情報とした年月日を設定している。
データ形式はyyyy-mm-dd形式である。

出典地図情報レベル : 地図情報レベル

この地物が，出典元の測量成果として取得されたときの地図的表現精度（位置精度及び表現分類）を図面の縮尺に対する概念として表した数値。
地物が新規に作成された場合にも，座標を参照した図形データの出典元の測量成果に応じた値を設定している。
なお，この地物が「測量の基準点」の場合は一般の地物とは意味が異なり，それ自体の表現精度を設定している。

出典メタデータID[0..1] : CharacterString

出典元データに関するメタデータのID。

表示区分[0..1] : 表示区分 = 表示

地図的表現を行う場合，このレコードを表示対象として取り扱うべきか否かを示すフラグ。値が “非表示” である時，非表示として取り扱うべき対象であることを示す。
非表示として取り扱う必要がない場合には “表示” であり，それが省略時値である。

表示区分 （列挙型）

表示対象とすべきか否かの区分。

列挙値 :

表示 :
非表示 :

地理情報レベル（列挙型）

基盤地図情報についての地物の地図的表現精度（位置精度及び表現分類）を図面の縮尺に対する概念として表した数値。なお，基準点データの場合は，一般の地物における地図的表現精度とは独立しており，基準点の等級に応じた精度であるとみなしている。

上位クラス : なし

列挙値 : なし

（子クラスで定義しており，このクラスでは定義していない。）

地理情報レベル_一般（列挙型）

一般地物が保持する地理情報レベル。

上位クラス： 地理情報レベル

列挙値：

地理情報レベル250 = 250	**縮尺1/250の地図的表現精度**
地理情報レベル500 = 500	**縮尺1/500の地図的表現精度**
地理情報レベル1000 = 1000	**縮尺1/1000の地図的表現精度**
地理情報レベル2500 = 2500	**縮尺1/2500の地図的表現精度**
地理情報レベル5000 = 5000	**縮尺1/5000の地図的表現精度**
地理情報レベル10000 = 10000	**縮尺1/10000の地図的表現精度**
地理情報レベル25000 = 25000	**縮尺1/25000の地図的表現精度**

地理情報レベル_基準点（列挙型）

基準点が保持する地理情報レベル。
列挙値は“KJnn”の形式であり，nn は電子納品要領に基づく基準点の等級コードである。

上位クラス： 地理情報レベル

列挙値：

電子基準点 = KJ10
一等三角点 = KJ11
二等三角点 = KJ12
三等三角点 = KJ13
四等三角点 = KJ14
１級基準点 = KJ21
２級基準点 = KJ22
３級基準点 = KJ23
４級基準点 = KJ24
その他の基準点 = KJ99

地理情報レベル_水準点（列挙型）

水準点が保持する地理情報レベル。
列挙値は“SJnn”の形式であり，nn は電子納品要領に基づく水準点の等級コードである。

上位クラス： 地理情報レベル

列挙値：

基準水準点 = SJ10
一等水準点 = SJ11
二等水準点 = SJ12
三等水準点 = SJ13
１級水準点 = SJ21
２級水準点 = SJ22
３級水準点 = SJ23
４級水準点 = SJ24
その他の水準点 = SJ99

地図情報レベル（列挙型）

出典元の測量成果についての地物の地図的表現精度（位置精度及び表現分類）を図面の縮尺に対する概念として表した数値。なお，基準点データの場合は，一般の地物における地図的表現精度とは独立しており，基準点の等級に応じた精度であるとみなしている。その際は，地理情報レベル_基準点，地理情報レベル_水準点の列挙型を援用する。

上位クラス：地理情報レベル

列挙値：なし

（子クラスで定義しており，このクラスでは定義していない。）

備考

基盤地図情報に対しては「地理情報レベル」を用い，出典元の測量成果に対しては「地図情報レベル」を用いる。

地図情報レベル_一般（列挙型）

一般地物が保持する地図情報レベル。

上位クラス：地図情報レベル

列挙値：

実測レベル = 0	**実測レベルの地図的表現精度**
地図情報レベル250 = 250	**縮尺1/250の地図的表現精度**
地図情報レベル500 = 500	**縮尺1/500の地図的表現精度**
地図情報レベル1000 = 1000	**縮尺1/1000の地図的表現精度**
地図情報レベル2500 = 2500	**縮尺1/2500の地図的表現精度**
地図情報レベル5000 = 5000	**縮尺1/5000の地図的表現精度**
地図情報レベル10000 = 10000	**縮尺1/10000の地図的表現精度**
地図情報レベル25000 = 25000	**縮尺1/25000の地図的表現精度**

基準点等パッケージ

このサブパッケージは，基準点，標高点，DEMデータと，それに類するデータに関するクラスを定義している。

DEM区画

DEM区画は，標高を測量し，又は算定した地点の集合体であり，経緯度によって四角く分割された１メッシュにおける標高値の分布を数値標高モデルとして表現するためのクラスである。その１メッシュ内をグリッドによって格子状に分割したセルに対して，標高値が割り当てられる。ここで表現される数値標高モデルは，JIS X7123 に準拠した被覆としての形式・構成となっている。

DEM区画は，経緯度により四角く分割された１メッシュを表し，そのメッシュ内がさらにグリッドにより格子状に分割されたセルに標高値が割り当てられる。

上位クラス：基盤地図情報地物

属性：

DEM種別 : DEM種別

DEM区画の種別。

メッシュ番号[0..1] : CharacterString

このDEM区画が対象とする範囲が，JIS X0410「地域メッシュコード」で規定された標準メッシュに対応する場合，そのメッシュ番号。
ただし，地域区画の区切り文字は入れず，連続した数字で表現する。

コンポジション：

coverage [1..*] : CV_DiscreteGridPointCoverage

このDEM区画を構成する被覆情報。
CV_DiscreteGridPointCoverageは， JIS X7123で定義された離散型グリッド点被覆を表現するためのクラスである。

備考：

CV_DiscreteGridPointCoverageを使用する場合，それを直接継承したクラスを定義することも多いが，DEM区画クラスは地物クラスを継承しており,多重継承を防ぐためにコンポジション関連としてこのクラスを集約する。

DEM種別 （列挙型）

DEM区画の種別。

列挙値：

5mメッシュ（数値地形）：
5mメッシュ（標高）：
10mメッシュ（標高）：
50mメッシュ（標高）：

CV_DiscreteGridPointCoverage

離散型グリッド点被覆を表現するためのクラス。
JIS X7123で定義されており，仕様の詳細については原典を参照すること。

ここでは，このクラスの実装のために必要な情報に限定して記述している。

属性（上位クラスから継承した属性）：

domainExtent[1..*] : EX_Extent

DEM区画の範囲をEX_Extentデータ型によって表現する。
基盤地図情報では，EX_GeographicBoundingBoxデータ型を用いてメッシュの空間範囲を，緯度経度座標値で示している。
westBoundLongitude属性は，メッシュの西側境界線となる経度値である。
eastBoundLongitude属性は，メッシュの東側境界線となる経度値である。
southBoundLatitude属性は，メッシュの南側境界線となる緯度値である。
northBoundLatitude属性は，メッシュの北側境界線となる緯度値である。

rangeType : RecordType

DEM区画が対象とする被覆データの型をRecordTypeデータ型によって表現する。
基盤地図情報では，“標高値”が“DEM構成点”データ型で存在することを示すよう設定している。

commonPointRule : CV_CommonPointRule

被覆からある点に対応する値を取得する際，その点に複数のオブジェクトが存在した時の対応方法を示す。この設定値は，CV_Coverageの操作を実装する場合に利用できる。

集約：

valueAssignment : CV_GridValuesMatrix

DEM区画のグリッドセルに対応する構成点の行列を示したデータ。

CV_GridValuesMatrix

DEM区画を構成するグリッドセルの定義と，個々のグリッドセルに割り当てられた被覆の値（ここでは標高値）を行列として保持するためのクラス。

このクラスは， JIS X7123で定義されているクラスを，その規定にしたがって使用している。仕様の詳細については原典を参照すること。

ここでは，基盤地図情報としてこのクラスを実装するために必要な情報に限定して記述している。

属性（上位クラスから継承された属性を含む）：

dimension : Integer

グリッドセルの次元。
基盤地図情報では 2 が設定されている。

axisNames : Sequence<CharacterString>

グリッドセルの座標軸の名称。
基盤地図情報では，”x y” と定義する。x軸は経度の正方向，y軸は緯度の正方向を意味している。
セル番号 (m, n) で，mはx軸の値，nはy軸の値である。

extent : CV_GridEnvelope

メッシュ範囲のなかを構成するグリッドセルの配列数をCV_GridEnvelopeデータ型で示す。
CV_GridEnvelopeデータ型において，low属性はセル番号の最も小さな値を示し，high属性はセル番号の最も大きな値を示す。
基盤地図情報では，low属性の値はメッシュ範囲をグリッド分割した各セルの中で北西端に位置するグリッドセルのセル番号を示しており，その値は常に (0,0) である。

また，high属性は同じく南東端に位置するグリッドセルのセル番号を示しており，その値はDEM種別の値に応じて一定値である。表2-1は，DEM種別ごとに設定されるlow属性値，high属性値を示している。

表2-1 DEM種別ごとのextent設定値

DEM種別	low属性値	high属性値
5m メッシュ（数値地形）：	0, 0	224, 149
5m メッシュ（標高）：	0, 0	224, 149
10m メッシュ（標高）：	0, 0	1124, 749
50m メッシュ（標高）：	0, 0	199, 199

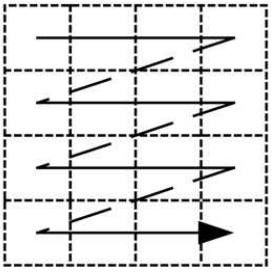
values : Sequence<Record>

グリッドセルに対応した構成点の値の配列である。
基盤地図情報では，DEM構成点クラスの配列とする。

グリッドセルに対応した構成点の配列順序は，sequencingRuleで定義される。
なお，先頭部分で連続した構成点の値が存在しない場合は，valuesにおける値の指定を省略することができる。その場合，実際に構成点の値が開始するグリッドセルをstartSequenceで指定する。
また，末尾部分で連続した構成点の値が存在しない場合は，valuesにおける値の指定を省略することができる。valueの配列で設定された値の数がグリッドセルの末尾に達しない場合，その後ろは省略されている。

sequencingRule : CV_SequenceRule

構成点の配列順序をCV_SequenceRuleデータ型で表す。
基盤地図情報では，type属性値=”Linear”，scanDirection属性値=”+x –y” と設定する。
この設定値は，先頭セルは北西端にあって，配列順序がx軸の正方向（西→東の順）へ順に並んでおり，東端に達すると次に，y軸の負方向（北→南の順）に進む方式で南東端に至る配列であることを示している。



startSequence : CV_GridCoordinates

valuesが示す構成点の配列が，グリッドセルのどのセル番号から開始するかを示す。

DEM構成点

DEM区画のグリッドセルに対応した構成点の値を表すデータ型。

上位クラス：なし

属性：

種別 : DEM構成点種別

この構成点の種別。

標高値 : Real

この構成点の標高値。

種別が「データなし」の場合，この属性値には ”-9999.” が設定される。

DEM構成点種別 （列挙型）

DEM構成点の種別。

列挙値：

地表面：
表層面：
海水面：
内水面：
海水底面：
内水底面：
データなし：
その他：

3. 参照系

3.1. 座標参照系

本仕様書では，座標参照系として，参照系識別子：JGD 2024，TP / (B, L)，H を採用する。なお，この表記は，JIS X7115 附属書 2 に規定された表記方法に準拠しており，JGD2024 は平成 23 年 10 月 21 日時点の測量法施行令（昭和 24 年政令第 322 号）第 2 条及び第 3 条を典拠とし，(B, L)は測地座標系による緯度，経度であることを示している。

このとき，座標値は度単位で指定することとし，座標値を設定する桁数は，小数点以下 9 桁とする。これにより，緯度・経度ともに，約 0.11mm 程度以上の精度が維持できるだけの桁数を確保できる。

また、鉛直方向の座標値は、基準点の楕円体標高値を除き測量法施行令第 2 条第 2 項に定められた日本水準原点を基準とした標高値であることを示している。ただし、測量法第 11 条第 1 項第 3 号ただし書により国土地理院の長が承認した測量の原点に基づく離島においては、その離島での測量の基準となる点を基準とする。座標値はメートル単位で指定することとする。

符号化された各空間オブジェクトでは，SC_CRS への参照を，srsName="fguuid:jgd2024.bl"のように，URI 参照の一種である UUID 参照によって解決している。この参照先には，参照系識別子："JGD2024/(B, L)"が定義され保持されているとみなす。

3.2. 時間参照系

本仕様書では，時間参照系として，参照系識別子："GC / JST" を採用する。なお，この表記は，JIS X7115 附属書 1 に規定された表記方法に準拠しており，GC はグレゴリオ暦，JST は日本標準時であることを示している。

4. 配布に関する情報

4.1. 配布方法

数値地図（国土基本情報）は，インターネットを利用したオンライン刊行及び DVD 等の媒体によって提供される。

数値地図（国土基本情報）サイトの URL は https://www.gsi.go.jp/kibanjoho/kibanjoho40027.html である。

数値地図（国土基本情報）のデータセットの作成単位は，地域標準メッシュ（JIS X0410 による）の第 2 次地域区画 を基本とし，さらに，地物クラスごとに別データセットとなっている。また，提供されるファイルは、メッシュ標高情報のほかに、電子国土基本図（地図情報）、電子国土基本図（地名情報）も同梱された zip 形式となっている。

電子国土基本図（地図情報）及び電子国土基本図（地名情報）については、それぞれの製品仕様書を参照されたい。

4.2. 配布形式情報

データの形式は，地理マーク付け言語（GML） 形式及びシェープファイル（Shapefile）形式である。

4.2.1. データセット構成

メッシュ標高情報データは，2 章で示された応用スキーマの構成をもち，JPGIS2014 に準拠した形式の XML 文書として符号化したデータセットである。

なお，ダウンロードされたファイルは 4.1 に記述されているように ZIP 形式で圧縮されているので，それを解凍する必要がある。

4.2.2. 符号化規則

メッシュ標高情報データの符号化規則は，JPGIS 2014 附属書 12 （規定） 地理マーク付け言語（GML）による。また，文字符号化方式は， UTF-8 である。

シェープファイル（Shapefile）形式は、米国 ESRI 社が提唱しているベクトルフォーマットである。また，文字符号化方式は，UTF-8 である。

4.2.3. 言語

データセット中の記述箇所で用いる言語は日本語である。

4.2.4. 名前空間

データセット中で用いている名前空間は， 表 4-1 のとおり設定している。

なお，これら名前空間の名称は定義名であって，必ずしも実体が存在する場所を示すものではない。

表4-1 メッシュ標高情報データにおける名前空間の設定（GML形式）

名前空間の接頭辞	名前空間の名称
（なし）	http://fgd.gsi.go.jp/spec/2012/BGIDEM/FGD_GMLSchema
gml	http://www.opengis.net/gml/3.2
xsi	http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance
xlink	http://www.w3.org/1999/xlink

4.2.5. 地物及び空間オブジェクトの識別情報

（※基盤地図情報ダウンロードデータファイル仕様書第 5.3 版からの抜粋）

個々の地物を構成するレコードには，基盤地図情報レコード ID と呼ばれる識別情報が設定されている。基盤地図情報レコード ID は，すべての基盤地図情報の中でそのレコードを一意に特定するための識別子である。基盤地図情報のすべての地物は，「基盤地図情報地物」クラスを継承しているので，このクラスに定義されている「基盤地図情報レコード ID」属性をもっており，ここにこの基盤地図情報レコード ID の値が保管されている。基盤地図情報レコード ID は一連の文字列であり，その文字列全体でひとつの識別子となっている。

それらを構成する空間属性はそれ自体も空間オブジェクトであり，空間スキーマ内でデータセットを超えた相互参照を行う場合がある。そのため，空間オブジェクトに対しても同様にオブジェクト ID が必要となる。現時点では，基盤地図情報の 1 つのレコードがもつ空間属性は 1 つに限定しており，基盤地図情報レコード ID に"-g" を加えた文字列を，そのデータの空間属性である空間オブジェクトの ID としている。

例　基盤地図情報レコード ID が "fid:10-00200-7-138-2864" のとき，
空間オブジェクトの ID は "fid:10-00200-7-138-2864-g" である。

4.2.6. 符号化におけるタグ名

（※基盤地図情報ダウンロードデータファイル仕様書第 5.3 版からの抜粋）

ISO 19100 / JIS X7100 シリーズの標準スキーマが提供するクラス名・属性名・関連名については，JPGIS 2014 附属書 12 で規定するタグ名を使用する。

2 章で示した応用スキーマのクラス名・属性名・関連役割名に対する XML 文書におけるタグ名は，表 4-2 のように割り当てている。

表4-2 XML文書におけるタグ名の割当て

クラス名	属性・関連役割名	タグ名
基盤地図情報地物 (FGD　Feature)	―	FGDFeature
	基盤地図情報レコード ID (Fgd record ID)	fid
	整備データ登録日 (Life Span From)	lfSpanFr
	整備データ削除日 (Life Span To)	lfSpanTo
	整備完了日 (Development Date)	devDate
	出典地図情報レベル (Original Geographic Information Level)	orgGILvl
	出典メタデータ ID (Original Metadata ID)	orgMDId
	表示区分 (Visibility)	vis
DEM 区画 (DEM Area)	―	DEM
	DEM 種別 (Type)	type
	メッシュ番号 (Mesh Number)	mesh
DEM 構成点 (DEM Point)	―	DEMPt

クラス名	属性・関連役割名	タグ名
	種別 (Type)	type
	標高値 (Altitude)	alti

4.3. XML スキーマ定義ファイル

数値地図（国土基本情報）メッシュ標高情報データに関する XML スキーマ定義ファイルは，数値地図（国土基本情報）サイトから ZIP 圧縮されたファイルとして入手できる。

5. メタデータ

5.1. メタデータの形式

本仕様書に基づく地理空間データ製品に関するメタデータは JMP2.0 に基づいて作成される。その具体的なデータ項目は，メタデータ・データベースの仕様として記述している。

5.2. 作成単位

数値地図（国土基本情報）のメタデータは，刊行時点の全国を作成単位として作成されている。